

5. お わ り に

草種にあった除草剤が使われている、またはほぼ使われていると回答した人がほぼ 100 %であった。しかし、農試へは、どの除草剤が効くか、との相談が多い。

稲作の低コスト化は必須命題であり、除草経費をいかに下げるかは当然考えなければならない事項である。しかし、現場の多くの農家では

雑草発生に頭を悩ませており、少し高くついてもよく効く除草剤がほしいというのが実状である。

現在ある除草剤を上手に使えば、除草面、コスト面でも農家にとって相当有効となる。技術情報が農家サイドまで十分伝わっていないことを痛感することが少なくない。効率的な伝達を行うにはどうしたらよいだろうか。

細粒剤 T 型噴頭散布機

細粒剤（正式名細粒剤 F）は水に溶かして使う水和剤、乳剤などに比べ効果に遜色なく、持続性の長いことが明らかにされている。水和剤等の 10 a 当り 100 l の散布水量は雨量換算で僅か 0.1 mm であることと対比して、細粒剤が乾燥に特別弱いという間違った考えを指摘しておきたい。

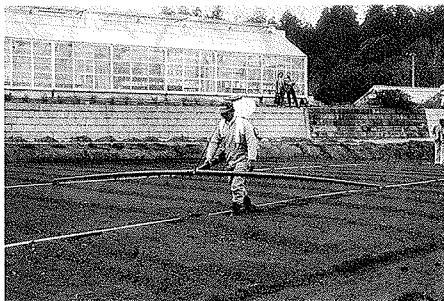
細粒剤は 1 g 当りの粒数が 1.7 ~ 2.2 万粒、見かけの比重は 1.0 以上、10 a 当り 4 ~ 5 kg を均一に散布すれば 1 cm² 当り 7 ~ 11 粒散布される計算となる。細粒剤 1 粒の理論的な除草効

果エリアは土壤水分条件によっても違うが、半径 5 mm 以上といわれている。したがって均一に散布すれば前記した 7 ~ 11 粒は十分な量である。

ここに紹介する T 型噴頭散布機は細粒剤を均一にまくために開発されたものである。散布幅 5 m、散布速度 0.5 m / 秒で 10 a 当り 6 分 30 秒の作業時間となる。実際の作業には 10 分もあればよい。散布精度は高く、その変動係数は風速 3 m 以内で 33 % 以下である。

昭和 62 年に試作機 40 台を各県農試等におくり、散布試験をしていただいた。その結果、約半数の場所からアンケートをいただいたが、約 9 割の場所が実用化できると判断され、散布精度についても約 8 割から合格点もらった。ただ改善事項として、㊦シャッター開度と歩行速度との関係を示すマニュアル作成、㊧薬剤散布確認窓の設置、㊨二重散布防止のための両筒へのコックの設置、などが要望された。これらについては改善の方向に進めるが、是非、本散布機を活用し、細粒剤の効率的利用を進めてもらいたい。

（財）日本植物調節剤研究協会 中山兼徳）



T 型噴頭散布機の散布試験風景
（株）丸山製作所製作